

第1回中野市老人福祉計画・介護保険事業計画策定懇話会 会議録

1 日 時

令和5年8月3日（木） 午後1時30分から

2 場 所

市役所 会議室 42、43

3 出席者

【委員】（敬称略）

丸谷和洋、小林強、南修、湯本和彦、畔上正人、六川雄一、田村安則、小林伸雄、斎藤文子、松島治恵、竹内恵美子、石塚豊、佐藤智弘、春原智子、浅野一彦、櫻井恭子、竹内敏子、山岸洋子（計18名）

【事務局】

湯本市長、高山健康福祉部長、宮嶋高齢者支援課長、早見高齢者支援課長補佐兼介護保険係長、児玉介護予防包括支援係長、高橋長寿福祉係長、長嶺主査（計7名）

4 欠席者

【委員】（敬称略）

杉浦宏子、矢澤則夫（計2名）

5 内 容

(1) 開会（事務局）

(2) あいさつ（湯本市長）

平成12年にスタートした介護保険制度も既に20年以上が経過した。これまで3年ごとに、老人福祉計画・介護保険事業計画を策定し、介護サービスの適切な提供、高齢者の保健福祉施策の推進を図ってきた。現在の計画が令和6年3月をもって終了することから、今年度中に令和6年度から8年度までの次期計画を策定することとしている。

第6期 介護保険 事業計画以降は、「地域包括ケアの推進」をさらに深めるとともに、「地域共生社会の実現」へ向けた体制整備のための移行期間と位置付けられ、介護保険制度の持続可能性の確保に向けた取組が行われており、団塊の世代がいよいよ75歳以上の後期高齢者となる2025年をまもなく迎える中で、第9期の策定では、これまで進めてきた「地域包括ケアの推進」「地域共生社会の実現」をベースにしながら、高齢者の就労の場の確保や高齢者の生きがいの強化、健康増進施策との接続による健康寿命の延伸などを図っていくことが求められている。

市としては、計画策定に当たり、皆さまの御意見をお聴かせいただき、本計画が「健康長寿のまち・中野市」の推進に向けたしっかりした計画となるよう、御協力をお願いしたい。

(3) 自己紹介

(4) 会長及び副会長の互選について

会 長：丸谷和洋

副会長：六川雄一

(5) 老人福祉計画・介護保険事業計画の策定について

【事務局説明】

(浅野委員) 今回の計画策定の業務委託先と、選定にあたって何か条件を付けているのか。あと、地域の民生委員さんなどと話をしていると、公共交通があまりないことが話題になる。高齢者向けに市でタクシー券を配ってもらってもいるが、すぐに使い切ってしまうと。生きがづくりという意味でも元気に出歩くことができる環境づくりもこの計画の中で考えていただきたいと思っている。

(介護保険係長) 委託業者は株式会社ぎょうせいです。現行の第8期計画でも携わってもらった業者になります。今回はプロポーザル方式で選定しましたので、これまでの業務実績や例規改正などの情報提供体制などを考慮して選定されたものです。

(高齢者支援課長) タクシー券につきましてはそういった声も聞かれますので、今後検討して参りたいと思います。

(6) 中野市の概況について

【事務局説明】

(浅野委員) 統計上の傾向は全国的にも同じ状況だと思うので、これを前提に進めていかなければならないのはもちろんだけれど、いわゆる「数」だけでなく、個人個人をイメージして計画を進めてほしい。もう一点、施設入所の待機者の状況を教えていただきたい。あと、コロナの影響で医療機関に適切に受診できなくて、施設で対応せざるを得なくなってしまって残念な結果になってしまった、など、そんな状況がこれまでであったのか、あるいは現状はどうなのか、対策はどのようにされているかなど差し支えない範囲で教えてください。

(介護保険係長) まず、中野市の個別の事情に応じた計画としていきたいと考えております。それと、施設入所の待機者につきましては、こちらで把握しているのは北信広域連合の特別養護老人ホームでして、増減はありますが、北信広域全部で100人以上です。グループホー

ム等につきましては、市では把握しておりません。

(丸谷会長) コロナにつきましては、医療サイドとして把握している範囲では、入院の必要がある重症者は昨年の夏以前と比べるとかなり減っておりますし、ワクチンや治療薬もだいぶ普及しているので、入院が必要だけど病院が満床で入れない、という状況はほぼないと聞いております。

事業所の方はいかがでしょうか。

(松島委員) 軽症の利用者が病院受診する際に介護タクシー、普通のタクシーいずれも対応していただけない、ということがあって本当に困ってしまいました。なので、これからは移動手段に関する細かいサービスが必要と感じている。

(丸谷会長) コロナの感染者の搬送に関しては困っているという話は現場でも聞く。ただ、感染のメカニズムもだいぶ分かって、一時的に車に同乗しているだけではそれほど感染リスクが高まるわけではないが、タクシー事業者の方の事情・判断もあるので難しい。結局ご家族が病院にお連れするとか、事業所の方が協力するとか。ただ、よい機会なのでお話しさせてもらいますが、診察の現場でも飛沫が飛ぶような場面ではもちろん厳重な対応をしますが、一時的に車に同乗する程度はそれほど感染の恐れを心配されるほどではないと思います。

(佐藤委員) 北信広域管内の特養の入所待機者について直近の数字がありますので、補足させてもらいます。8月1日現在ですが、5施設合計で138名です。その中で中野市の方がうち56名です。

飯山のてるさとが令和3年の3月に開所して30床増床になり、いったんは待機者が解消されました。ただ、入所検討委員会を毎月開催していますが、常に20人から30人の申し込みがあり、退所者とのバランスで全体的にはまた増えていますので、大体常時150人くらいは待機者が生じている状況です。

(浅野委員) 待機期間はどのくらいでしょうか。

(佐藤委員) ケースバイケースなので、その方ごとに判定を行うので「どのくらい待てば入所できます」と一概にはお答えできない。

(石塚委員) 全体を通してですが、介護費用の推移で施設と在宅で一人当たりの単価がだいぶ違うと思う。施設の方が非常に高くて待機者もこれだけいらっしゃる。なんとかこうした状況にならないように在宅サービスを充実させていかないとパンクしてしまうと思う。この資料で、複合的な在宅サービスの整備とありますが、新たにそういう体制整備するのにも費用が掛かるので、既存のサービスで付加価値のあるサービス、介護サービスでは埋まらない生活困難な方が抱えている必要とするサービスはたくさんあると思

う。なので、既存のサービス事業者がそういった細かい困りごとを埋めていくことも地域の方の在宅生活を支えるうえで必要と感じている。そんな視点も計画に盛り込んでもらえればありがたい。

(7) その他

(事務局)

2回目の懇話会の開催について、11月を予定。内容は素案等をお示しして、ご意見を伺うことがメインとなる予定です。

(8) 閉会（会長）（午後2時05分）